

令和3年度 第3回 大阪府立東住吉支援学校 学校運営協議会 実施報告書

大阪府立東住吉支援学校
校長 東 正 浩

日時	書面にて開催
場所	書面にて開催
委員	守屋國光 家坂友之 北畠正寛 船戸正久 藤坂 美穂 濱田めぐみ
学校	東 正浩 (校長) 甲斐俊夫 (准校長) 大西昭彦 (教頭) 坂田享介 (教頭) 萬井俊治 (首席) 中尾葉子 (首席) 池田浩明 (首席)
議題	(1) 令和3年度 学校経営計画評価について (肢体不自由教育部門)(知的障がい教育部門) (2) 令和3年度 学校教育自己診断について (肢体不自由教育部門)(知的障がい教育部門) (3) 令和4年度 学校経営計画について (肢体不自由教育部門)(知的障がい教育部門)
意見 要旨	<p>【意見の概要】</p> <p>(1) 令和3年度の学校経営計画評価について書面を配付の後、ご意見を賜った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オミクロン株の影響で大変な1年だったと思う。教職員のストレスや疲労負荷が多くなることで、体罰などが起こりやすい状況やスキルの出にくさにつながると思う。 ・本年度もコロナ対策が引き続き行われたが、臨時休校中の進捗等が安心メールアプリでこまめにあったので、デイサービス等連絡が取りやすかった。 ・肢体部門では、実践研究と医療的ケア、教職員の働き方改革の一層の充実が求められることが理解できた。 ・知的部門では、ICT活用が進んでいること、交流及び共同学習やキャリア教育の進め方への創意工夫や教職員の働き方改革の一層の充実が求められることが理解できた。 ・教職員の働き方の現状は、教職希望者の減少にも直結している深刻な課題。各学校での取り組みだけでは限界があるが、多様な改革の試みがなされていく必要があるかと思う。 <p>(2) 令和3年度の学校教育自己診断について、ご意見を賜った</p> <ul style="list-style-type: none"> ・防犯・災害について。ここ数年十分に避難訓練が実施できていない状況。マニュアル整備だけではなく、安心できるようシミュレーションや意見交換の取り組みを提案したい。 ・保護者、教職員ともに、進路や職業、キャリア教育の数値が低いように感じる。ヒアリングや計画の見直し、具体的な課題が必要と考える。 ・いじめだけではなく、担任からの心無い言動についても聞き取りしてもらいたい。教職員の児童生徒への対応について、他教職員の問題行動がないかの聞き取りを希望したい。 ・知的、肢体(教員用)18「防犯・防災計画は全教職員に徹底されている。」診断についてB, C, Dの回答が出ていることについて徹底した体制構築を願いたい。

	<ul style="list-style-type: none"> ・11「学校は施設・設備の点検、事故防止に配慮している。」が低くなっている。今回は天井落下の危険が大きく、不安なのがわかる。何かおきてからでなく、日常点検などしていれば防げたのかと思うので今後定期的にしてほしい。 ・安全・安心は学校に限ったことでないが、施設・設備の常時点検、防犯・防災体制の一層の充実をお願いする。 ・「災い転じて福となす」「ピンチはチャンス」という諺がある。教職員の結果からコロナ禍がチーム学校作りにプラスの影響を与えているようにも感じられた。 ・コロナ禍で工夫しながら教育活動を進めている。制限がある中で比較的高い評価を得られていることは素晴らしい。職員の回答数が増加したことも評価できる。 ・PTA活動がほとんど行えなかった。来年度は感染症対策を行い、子どもたちが安心安全に楽しく学校生活を送れるよう協力したい。 ・教職員の回答率の大幅な改善は、「チーム学校」に向かって大きく前進している。保護者の回答率はもう少し高くなってほしい。 ・保護者が学校に安心、信頼を寄せている様子を読み取れた。教職員の回答では防犯防災計画の周知、教職員の意見の反映、経験の浅い教職員の育成体制等で肯定的回答が相対的に低くなっており課題も見えてきた。ボトムアップとトップダウンの使い分けに加えて、一体感ある日常的な関係創りが大切である。 ・進路指導について。本人はもちろん保護者にとってとても大事である。引き続き将来につながる指導をお願いしたい。 ・教職員全般について全体的に「C」の回答が多く感じた。教職員の温度差の結果かと思う。その差は最終的に子どもに影響するので、少しずつ改善してほしい。 ・進路指導について。コロナ禍で事業所の対応など見えにくい部分が多く、難しい年だったと思う。保護者だけではなく、教員と福祉施設等との連携や情報共有が大切である。 ・いじめについて。深刻で判断も難しいがこの項目は否定的な意見をなくすことが大切。教職員が個人で抱え込まないケア体制、保護者へは対策の見える化が必要である。 ・人材育成について。常置会議だけではなくホワイトボードミーティング、SV（スーパービジョン）、1 on 1 ミーティングなど、バズセッションなどでの改善方法もある。 <p>(3) 令和4年度の学校経営計画について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・不登校の子どもへの支援は、どんな動きなのか知りたい。 ・いじめについての対応は、委員会だけではなく、ご家族・ご本人に対するアプローチも含めてはどうか。肯定的な回答については、教職側だけではなく、当事者に目を向けることで肯定的な意見が増えると思う。 ・PTA 担当教職員のしっかりとした引き継ぎと全ての情報の共有について体制構築を願う。全教職員での徹底した情報共有のシステム構築を願いたい。 ・コロナ禍での計画推進には大変苦労があると思うが、児童生徒と保護者、地域の理解と協力を得ながら、チーム学校として難題に取り組まれることを期待している。
協議資料	<ul style="list-style-type: none"> ・令和3年度学校経営計画評価(肢体不自由教育部門)(知的障がい教育部門) ・令和3年度学校教育自己診断 ・令和4年度学校経営計画

